



【学校教育目標】

健康で明るく 心豊かな 主体的人間の育成をはかる

【校訓】

■健康な体

■誠実な心

■前進する力

## 2学期終業式でのメッセージ「心をつなぐ挨拶」

苫小牧市立光洋中学校長 大橋 祐之

このように体育館で、皆さんにお会いできること、お話しできることは、私にとっても、かけがえのない時間であり、この上ない喜びを感じます。

今日、2学期の終業式を迎えることができました。2学期は、新型コロナウイルス感染症に関わる学級閉鎖等があったものの、教育活動、そして、特に学校行事が予定どおり実施できたことは、皆さんの日常生活における感染予防対策などの成果だと思っています。

一方で、残念ながら、一部の部活動では、大会等に参加できないことがあったのも事実です。大会等に向けて取り組んできた、その選手たちの心中は察するに余りあるものでした。

また、2学期のスタート時に、私から「昨日の自分より、一步前進」すること、そして、「相手を尊重する気持ち」を大切にすることについて、お話しさせていただきました。「どうでしたか」。自分自身でも2学期を振り返ってほしいと思っています。

さて、冬休みを迎えるに当たって、一つお話しさせていただきます。

先日、白老町にある高校に行く機会があり、その学校に自家用車で向かっていました。学校の近くまで行くと、歩いている生徒たちに出会いました。その時、出会った生徒たちは、立ち止まり、車を運転している私に挨拶をしてくれました。一人とか二人ではありません。出会った生徒全員です。とてもすがすがしい気持ちになりました。

翌日、その高校の教頭先生に電話で、感謝の気持ちを込めて、挨拶のことをお伝えしました。教頭先生は、「先生方から指導しているわけではありません。先輩がやっていることを後輩たちが受け継いでいるのだらうと思います」とおっしゃっていました。

さらには、皆さんの中にも、印象に残っている人がいるかも知れませんが、「FIFAワールドカップ（W杯）カタール大会」の日本対クロアチア戦の試合終了後に、森保監督が、一人でゆっくりとスタンドの前に向かい、胸に手を当てる仕草を見せ、頭を深く下げてファンやサポーターに謝意を示したことは、メディアでも大きく報じられ、いろいろな意味で海外からも注目されました。「皆さんはどう思いますか」。

ここにいる皆さん（光洋中の生徒たち）方も、いつも丁寧な挨拶をしてくれます。是非とも、すがすがしい挨拶を今後も続けていってほしいと思っています。

最後に、昨年度の2学期終業式でお話ししたことをもう一度繰り返します。

挨拶は誰もが行う当たり前の行為であると同時に、人間関係を築いていく上でとても重要なものとなっています。挨拶の「挨」には「心を開く」という意味があり、「拶」には「心に近づく」という意味があります。皆さんが範を示したとおり、「挨拶」は、「自分の心を開いて相手の心に近づいていく」ということです。挨拶は、「心をつなぐ」という人間関係をスタートさせる大切な一歩となるわけです。

皆さんには、人の心をつなぐ力が備わっています。これからも、心ある挨拶を大切にしてほしいと思います。

# 中学生主張発表大会

# 綿貫さん優秀賞！！

12月3日（土）に文化交流センターで苫小牧市中学生主張発表大会が開催され、本校から生徒会長の綿貫さんが代表として参加しました。「やる気があれば」というテーマで生徒会役員選挙の在り方や役員の選出の仕方に対する自らの考えを堂々と発表し、見事優秀賞に輝きました。

本大会は毎年市内全中学校から代表16名が参加し開催されています。その中でも綿貫さんの発表は斬新な切り口で自らの考えをまとめ、わかりやすくそして生徒会役員選挙の新たな指針を示してくれる内容でした。



「やる気があれば」

私の学校では、生徒会役員を決めるときに、選挙を行っています。立候補しなければ、候補になることはできません。生徒会活動には興味があるけれど、立候補する勇気がない。実はそんな人は、意外に多いのではないのでしょうか？

私は今、生徒会長をしていますが、本当の私はとても人見知りです。周りの人の応援があっても、なんとか乗り切りましたが、選挙期間中はずっと、プレッシャーと戦っていました。

立会演説会を終え、選挙結果が出されるのを、立候補者全員で待ちました。その時、「この場にいる人全員で生徒会やればいいんじゃない？」という発言がありました。生徒会活動に前向きな人の集まりなので、雰囲気良く、話していても楽しかったのです。しかし、結果が発表されれば、落選する人が出てしまう。その事は、候補者全員にとって、辛い経験となりました。

やる気があるのに、やる事が出来ない。中学校の生徒会活動において、経験する必要があることでしょうか。やりたい事に打ち込む方が、その人にとってより価値のある経験ではありませんか？

インターネットで調べてみると、中学校の生徒会役員を決めるときには、全国的に何らかの選挙を行って、選挙活動と同じく、自由に参加できる場にするのはどうでしょうか？役員を投票で選ぶのは止めて、人数の制限もせず、やりたい人は全員、生徒会役員に入ることができ、やる気のある人が関われないこともなくなり、人前で話すのが苦手な人でも入ることが出来ます。生徒会役員になった人は、学校行事に意欲的に取り組むので、役員がたくさん居れば学校行事も盛り上がり、学校全体の雰囲気も良くなる、生徒会の会議などを通して、生徒が主体的に物事を考えられるようになるなど、たくさんさんのメリットが期待できます。

「生徒会選挙は、社会に出る前に選挙制度を学ぶ大切な機会だ。」という意見もあるでしょう。しかし、その学ぶべき大人たちの「選挙」はどうなっていますか？投票率がなかなか上がらないのは、民意の反映を実感できないからではないでしょうか？それならば、意欲的に関われば自らの意見が反映される、全員が参加できるかたちのほうが、選挙よりも優れていると思いませんか？

もう一つ、この「部活動のような生徒会」には、将来の日本を変えようとする要素があるのです。それは、女性のリーダーが増えるきっかけづくりです。

生徒会役員の中では、男女比が半々くらいなのに、生徒会長だけは、女子生徒の割合が極めて少なく、11%しかいない。滋賀県大津市が行った調査で、そのような結果が出たそうです。女子の方が「目立ちたくない、失敗したくない」と考え、立候補を避ける傾向が強いこと、リーダーは男子が多いという刷り込まれた社会的慣習が原因にあるのでは、ないかと推察されています。

ジェンダーによる不平等というのは根が深く、気づきにくいものです。もし「女子の生徒会長が少ない」という「選挙」が関係するのであれば、選挙を止めてみればいい。会長は、話し合いでふさわしい人がなればよいのです。それが女子の会長増加に繋がるのなら、将来、日本が今よりもよい社会となっていくきっかけとなるのではないのでしょうか。

## 1月の行事予定

- 1日（日）元日 学校閉庁日（～1/5）
- 5日（木）北海道中学生インドアソフトテニス選手権大会
- 9日（月）成人の日
- 10日（火）冬休み学習会  
苫小牧地区中学校ソフトテニス冬季研修大会
- 11日（水）冬休み学習会
- 14日（土）バスケ冬季大会
- 16日（月）3学期始業式 職員会議 <給食なし>
- 19日（木）常任委員会
- 20日（金）全協 英検  
中央高推薦・専願入試  
大谷室蘭推薦入試
- 21日（土）苫高専推薦入試 札幌日大推薦入試  
立命館推薦入試 バスケ冬季大会

- 22日（日）バスケ冬季大会
- 23日（月）駒澤推薦・専願入試
- 24日（火）北海道栄推薦・SC・SCα入試  
苫高専推薦・専願入試
- 27日（金）特別支援学校高等部入学者選考
- 30日（月）生活向上週間（～2/3）

12月29日（木）～1月5日（木）までの学校閉庁期間中、職員は不在になります。緊急時の連絡は市教育委員会(32-6739)までお願いします。

○新型コロナウイルス感染症の状況により、**行事等に変更が生じる場合**がございます。変更につきましては、書面またはさくら連絡網でお知らせします。